

現在の佐賀平野や有明海の干潟ができるまでには、長い年月と、阿蘇山の大噴火で降り積もった火山灰、造陸現象や干拓がかかわっています。

□阿蘇山の火山灰が日本中に



(上峰町教育委員会 提供)

八藤丘陵の阿蘇4火砕流 堆積物及び埋没林

約9万年前、阿蘇山が大噴火して、県内にも爆風と火砕流が到達しました。八藤遺跡(上峰町)で発見された埋没林から、長さ約22m、直径約1.5mの巨木を含む多くの樹木がなぎ倒されたことが分かります。

この時の火山灰は日本全土に降り注ぎ、北海道東部でも15cmも降り積もりました。

□縄文海進のピークは約7000年前



縄文海進ピーク時の海岸線

約1万6000年前から温暖化が始まり、陸地の奥へ海水が入り込んできました。この現象を縄文海進といいます。縄文海進のピークは約7000年前。海面が上昇し、海岸線は今より約10数km内陸部にありました。

※東名遺跡については14ページ参照

(佐賀市教育委員会 提供)

□佐賀平野の成り立ち 造陸現象と干拓



(農林水産省 Web サイト
<http://www.maff.go.jp/kyusyu/seibibu/kokuei/18/kantaku/index.html> を一部加工)

阿蘇山の大噴火で降り積もった火山灰や、砂礫が風化して粘土になり、川によって有明海に運ばれました。それが堆積して陸地や干潟が広がっていきました。これを造陸現象といいます。江戸時代以前から有明海を堤防で仕切った干拓が進められ、現在のような佐賀平野になりました。

見どころスポット

上峰町ふるさと学館

住所：三養基郡上峰町坊所 606
電話：0952-52-4934
開館時間：10時～18時
休館日：毎週月曜、第1火曜、祝日、年末年始
料金：無料



— 第2章 — 佐賀県の 歴史

